

●モンゴル

モンゴルの第3四半期の成長率は上昇し、マクロ経済指標の改善傾向は10～11月も継続している。しかし不良債権の拡大、通貨トゥグルグの減価の継続、家計へのインフレ圧力などいくつかの指標の悪化が見られる。

マクロ経済

2018年第3四半期の実質 GDP の成長率は対前年同期比6.7%で、前期の同6.4%から上昇した。また1～9月期の GDP 成長率は前年同期比6.4%となった。加速した第3四半期の成長は、サービス及び農業部門の貢献によるものである。

一方、鉱工業生産額の伸び率は10月には前年同期比15.3%、11月は同10.7%となった。また1～11月期の伸び率は同3.2%となった。原油、螢石、鉄鉱石、モリブデン精鉱などの生産は前年同期を下回った。しかし石炭、銅精鉱、金、螢石精鉱、錫精鉱などのその他の主要鉱産品の生産は前年同期を0.2～15.4%上回った。1～11月期の主要製造業の生産額は前年同期を上回った。牛肉及び羊肉の生産はそれぞれ4524トンと6586トンであった。ヤギ肉の生産は前年同期の二倍の4079トンであった。

2018年10月末の登録失業者数は2万7300人であったが11月末には2万4200人に減少している。この数値は前年同期比0.3%増である。登録失業者の53.9%が女性であった。労働社会福祉サービス庁によれば、全国で前年同期を0.2%上回る8万1700人が新たに失業者として登録し、前年同期を9.5%下回る2万1300人が職に就き、前年同期を9.8%下回る6万1600人が就職活動を行わず失業者登録から外れた。

消費者物価 (CPI) 上昇率は2018年9月に前年同月比6.4%、10月に同6.3%、11月に同8.1%となった。1～11月期の上昇率は6.7%であった。11月には CPI は全ての

部門で上昇している。品目別では住宅・水・電気・燃料の上昇率が16%で最も高く、保健が12.7%、交通が11%でこれに次いでいる。これらの品目の消費者物価に占めるシェアは27.3%である。さらに全体の26.1%を占める食料及び非アルコール飲料の上昇率は7.6%となった。一方で第3四半期末の賃金・給与の対前年同期比上昇率はこれらの変化を下回る7.9%であった。この状況は家計にとって重荷となっている。

通貨トゥグルグの対米ドル平均為替レートは10月に1ドル=2564トゥグルグで、11月は対前年同期比5.4%減価となる同2582トゥグルグとなっている。

2018年10月の国家財政収支は1000億トゥグルグの黒字、しかし11月は750億トゥグルグの赤字となった。1～9月は2660億トゥグルグの黒字で前年同期の984億トゥグルグの赤字から改善した。1～11月の財政収入は前年同期を27.4%上回る8兆2300億トゥグルグで、支出と純貸し出しの合計は前年同期を7%上回る7兆9600億トゥグルグであった。同期の租税収入は前年同期を30.8%上回る7兆4000億トゥグルグであった。財政収入は資本収入と援助を除く全ての項目について上昇した。

2018年11月末の貨幣供給量 (M2) は18兆6000億トゥグルグ (72億ドル) であった。これは前年同期を25.9%上回っている。米ドル建てでは同じく19.4%上回っている。一方、11月末の融資残高は16兆7000億トゥグルグで、前年同期を23.9%上回っている。米ドル建てでは前年同期を17.5%上回っている。11月末の不良債権比率は12.4%で、前年同期の8.6%から上昇した。この比率の上昇はマクロ指標の改善にも拘らずビジネス環境に懸念が残っていることを示している。

外国貿易

2018年1～11月期のモンゴルの貿易相手国は155カ国で、貿易総額は116億ドルであった。輸出は前年同期を14%上回る65億ドルで、輸入は前年同期を37.6%上

回る54億ドルであった。この結果、貿易収支は11億ドルの黒字となった。輸出の増加は主に鉱産物と繊維製品の伸びによるものであった。鉱産物の輸出は前年同期比23.9%増で、繊維製品は同24.9%増であった。石炭の輸出は24.1%上昇し260万ドルとなった。同時期に輸入はすべての項目で増加した。非金属及びその他は66.3%、機械類・電気製品は45.6%、食料品は16.4%それぞれ増加した。

モンゴルの貿易相手国としては通例のとおり二つの巨人が圧倒的な地位を占めた。2018年1～11月期の中国への輸出は全輸出の93.2%にあたる60億ドルで前年同期比23.8%増であった。一方、中国からの輸入は全輸入の34.4%の18億ドルで前年同期比44.8%増となっている。ロシアへの輸出は7770万ドルを記録し、前年を30.2%上回っている。輸入は前年同期を38.2%上回る15億ドルで全輸入の28.8%となった。日本への輸出は前年を86.6%上回る2430万ドルを記録した。日本からの輸入は5億1710万ドルで前年を54.7%上回った。モンゴルと日本の間の高い輸送コストにも関わらず貿易の高い伸びが記録されたのは、二国間 EPA のプラスの効果と見ることができる。しかし、モンゴルの貿易収支の対日赤字は続いている。韓国への輸出は前年同期を94%上回る2070万ドルを記録した。韓国からの輸入は2億3970万ドルで前年同期を33.3%上回っている。北朝鮮への輸出は105万ドル、輸入は48万ドルであった。

鉄道貨物輸送

2018年1～11月期の鉄道貨物輸送量は139億トンキロであった。このうち国内輸送が18.7%、輸出が47.4%、輸入が9.2%、トランジット輸送が24.6%であった。トランジット輸送量は34億トンキロであった。

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャクダル

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1Q	2018年 2Q	2018年 3Q	2018年 10月	2018年 11月	2018年 1-11月
実質 GDP 成長率 (対前年同期比:%)	11.6	7.9	2.4	1.0	5.1	6.1	6.4	6.7	-	-	-
鉱工業生産額 (対前年同期比:%)	16.1	10.7	8.8	12.3	13.0	2.6	1.9	▲ 1.3	15.3	10.7	3.2
消費者物価上昇率 (対前年同期比:%)	10.5	12.8	1.9	1.1	4.3	6.8	6.4	6.5	6.3	8.1	6.7
登録失業者 (千人)	42.8	37.0	32.8	34.4	25.5	23.1	25.8	24.2	27.3	24.2	24.2
対ドル為替レート(トゥグルグ)	1,526	1,818	1,971	2,146	2,441	2,408	2,411	2,477	2,564	2,582	2,458
貨幣供給量 (M2) の変化 (対前年同期比:%)	24	13	▲ 4.6	19.8	30.5	31.1	28.6	21.4	26.3	25.9	25.9
融資残高の変化 (対前年同期比:%)	54	16	▲ 6.4	6.1	9.6	11.5	19.3	21.8	22.9	23.9	23.9
不良債権比率 (%)	5.0	5.0	7.4	8.5	8.5	8.7	8.6	8.3	11.9	12.4	12.4
貿易収支 (百万 USドル)	▲ 2,089	538	872	1,559	1,863	352	470	110	137	40	1,109
輸出 (百万 USドル)	4,269	5,775	4,669	4,917	6,201	1,482	2,099	1,701	662	536	6,481
輸入 (百万 USドル)	6,358	5,237	3,798	3,358	4,337	1,130	1,629	1,592	525	496	5,372
国家財政収支 (十億トゥグルグ)	▲ 297	▲ 868	▲ 1,157	▲ 3,660	▲ 1,742	▲ 26	39	229	100	▲ 75	266
国内貨物輸送 (対前年同期比:%)	▲ 1.3	20.1	▲ 16.1	12.5	19.1	19.4	1.1	18.4	-	-	-
国内鉄道貨物輸送 (対前年同期比:%)	▲ 0.5	2.8	▲ 8.0	8.3	8.7	37.7	3.3	5.6	12.9	9.9	13.6
成畜死亡数 (対前年同期比:%)	84.8	▲ 63.0	56.0	2.3	▲ 38.8	4.2	3.1	54.0	-	-	-

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。

(出所) モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号 ほか